

# Pola X

ポーラ  
X

un film de Leos Carax



**「たぶん『ポーラ X』は余りに期待され、余りに重い過去と負債を負わされた**  
ぼくらは深く、深く、もっと深く、深く降りてゆかねばならない

レオス・カラックスの新たな伝説

華麗な映像と激越なドラマで多くのファンの心を揺さぶった『ボンヌフの恋人』から8年、  
レオス・カラックスが『ポーラ X』で復活した。製作費14億円、撮影期間は26週に及んだ。

降りて、降りて、立抗の螺旋の階段<sup>きざはし</sup>が降りてゆくところまで

**不公平な映画なのだろう。だがしかし、死に物狂いで映画に全身全霊を傾け、**

H.メルヴィルの問題作「ピエール」を映画化

メルヴィルが「白鯨」の翌年に書きあげた長篇大作が「ピエール」(1852年)。発表当時はあまりに背德的  
で虚無的な内容のため失敗作ときめつけられ、「メルヴィル発狂す」と報じた新聞まであった問題作だ。

降りてゆかねばならないが、

エモーショナルな映像と壮絶な愛の物語

バイクを捨て足をひきずり走る男、不安のあまり走り出す女。全速力で疾走し、狂乱し、  
旋回するバイク。炸裂するパーカッション。二人で“血の河”を下る怖ろしい夢。

**希有な美の真珠を新たに探そうと、これほど深く映像と音の中に身を沈めた者が、**  
それでも終わりはない — ハーマン・メルヴィル「ピエール」

“ゴダールの再来”、“偶像破壊者”

22才にして初長篇『ボーイ・ミーツ・ガール』で早熟なデビュー、“フランス映画界の神童”と騒がれ、  
25才で『汚れた血』、30才で『ボンヌフの恋人』と『アレックス青春3部作』を完成、  
そのたびに注目と賛嘆と毀誉褒貶にさらされてきた若き巨匠カラックス。

**今日の映画作家の中に一体何人いるだろうか？**

(仏「ル・モンド」紙)

音楽は鬼才スコット・ウォーカー

彼は60年代半ば「ウォーカー・ブラザーズ」としてヒットを放ち人気を博した後、  
メインストリームから姿を消し、80年代からはその特異な低い声を生かした  
カルト的音楽でアート派として再登場した。

## 先行有料プレミア上映会

7月22日[木] 8:30p.m./カラックス監督の舞台挨拶あり

入場料=1800円均一(7月11日[日]よりプレミア上映鑑賞券を劇場窓口のみにて発売開始)

劇場=シネマライズ(渋谷・公園通りパルコ・パート3前) tel. 03-3464-0051

## 今秋、シネマライズにて公開

7月23日より前売券1500円(当日一般 1800円/学生1500円/高校生・シニア1000円)発売開始!(都内各プレイガイド/チケットぴあ/チケット・セゾン)

★シネマライズおよびユロススペース劇場窓口でお買い求めの方には、フランス版オリジナル特報・予告編、カンヌ映画祭記者会見収録の  
特製ビデオをプレゼント(3000本限定/先着順)

提供=アミューズ+デジタル・メディア・ラボ+テレビ東京+電通+ユロススペース